

活動報告

田んぼの学校 宮原小学校〈脱穀〉

11月14日、宮原小学校による田んぼの学校「脱穀」を行いました。田んぼの学校では代かきから始まり、自分たちで田植え、稲刈りと米作りの一年を実体験として学んでもらいましたが、いよいよ大詰め脱穀となり、寒空の中しっかりと頑張ってくれました。「箸」を使った脱穀の方法や、教科書にも載っている「千歯こき」を使用し、丁寧な作業を行っていただきました。今まで体を使う作業ばかりだったので、今回は手先だけの地味な作業のように思ったかもしれませんが、収穫という意味で捉えた場合、絶対に雑な作業はできないことを伝え、脱穀を行ってもらいました。ブルーシートの上での作業なので、落ちた米もきちんと残らずタライの中に集め、脱穀最後の唐箕(とうみ)では子どもたちは興味津々で作業を見つめ、昔ながらの知恵を目の当たりにし、起こす風の力で実の重さを分けることに感動しているようでした。今まで行ってきた作業は、現在では全て機械が行っている事を説明し、今の時代の便利さと昔の手作業だった時代の大変さを、しっかり理解してもらえたと思います。



▲割り箸を使って丁寧に



▲千歯こき、初めて使ったよ



▲とうみで、ごみを飛ばして

第13回里山フェスタ

11月24日、立神峡公園で里山フェスタを開催しました。来場者は200人を超え、スタッフ・出展者合わせて60人ほどの大きなイベントとなりました。今年はチェーンソーアートや、まきストーブ、ペレットストーブ、石屋さんの石臼でひくコーヒー、発電自転車で綿菓子を作ろうなど、珍しい体験や出展などもありました。また、森の風車、ブービー笛など自然物を利用したクラフトは開催時間の10時から終了の15時まで体験者が尽きることはありませんでした。皆さん、制作したクラフトを持って他のブースを回ったり、おいしい猪汁を食べたりと満足されていたようでした。ディスクゴルフ場では地元おやじバンドの人たちの演奏会で静かな里山に心地の良い音楽が流れていました。出展者の人たちからも、非常に良かったというような感想を多くいただきました。出展者同士でもさまざまな交流があったらしく、来園者も出展者も満足のいく里山フェスタを開催できたと思います。皆さま本当にありがとうございました。次回の里山フェスタも今回に負けないよう精一杯、努力したいと思います。



▲チェーンソーアート



▲どんぐりクラフト



▲里山音楽会

紅葉狩りと炊飯交流会

11月29日、日帰りバス旅行で熊本市内から約30人の若者たちが公園を訪れました。単なる紅葉見物で来園されるお客さんは多いのですが、今回は仲間同士の交流を含めたバス旅行をしたいとの事で、公園スタッフと一緒にみんなでシチューやおにぎりを作って和気あいあいと食事をし、空いた時間で「みかん狩り」も楽しんで行かれました。公園内の散策では絶壁前のカエデもちょうど見頃だったので、とても喜んで帰られました。

お問い合わせ・お申し込み先
立神峡公園管理組合 ☎62-1543 tategamikyou@yahoo.co.jp (8:30~17:30 火曜定休日)

町民文芸

短歌

memoirs書いてはみたが心違
シナリオ変えて今朝も飯食う
法道寺 本田 花風

家ごとに皇帝ダリヤ背伸びして
道行く吾に微笑んでいる
北野津 宮本 末秋

高々と聳える銀杏の大樹から
舞いちろ落葉追いかける吾
高塚 桑原ゆき代

マスクして帽子真深に被りたる
人のお辞儀にしばし戸惑ふ
吉本 高橋 澄子

後継者不足なれどもイ草植え
日本の豊いかに守らん
西野津 古崎スエノ

迎春の松の緑も艶やかに
心の糧の花活くる
南鹿野 尾崎 京子

新玉の年の始めに思うのは
今年の我が家どんな年やら
吉本 橋村 正之

俳句

トラクターの後に続く白鷺の
親子の啄むいとしさよ
西野津 古崎 栄子

うまくゆく年を迎えて初日ノ出
拝む幸せ先は健康
高塚 竹中 力

乱れ散る世は末法と人は言う
外は真白き霜の朝
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

山間の家いえ飾る柿すだれ
北野津 宮本 末秋

ストーブを入れてもらえぬ夫のいて
栗飯を供へ朝餉を囲みけり
吉本 高橋 澄子

秋草を活けて静かに老い生きる
西野津 古崎スエノ

母の忌を終えし心の安らかき
南鹿野 尾崎 京子

冬晴れや干されて匂ふ白インナー
西野津 古崎 栄子

お元旦追いつ追われつ孫は育つ
町 香山菊童子

凄技をみせて今年の夢語る
町 香山セツ子

初詣で破魔矢御守みやげもの
高塚 竹中 力

除夜の鐘しみる無常の年明り
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

久方に会釈交して年暮るる
桜ヶ丘 吉田 照子

相よりて老いのはなやぐ日向ぼこ
町 田中 澄子

着ぶくれて母の齢を遠に越ゆ
桜ヶ丘 宮崎トシ子

そう言う事
吉本 橋村 正之

人生で
なんでこんなに素敵なの
それはあなたがリツチだからよ

人生で
なんでこんなに楽しいの
それはあなたがラブラブだから

人生で
なんでこんなに切ないの
それはあなたが恋してるから

人生で
なんでこんなに悲しいの
失恋したら誰でもそうよ

人生で
なんでこんなにユーウツなのよ
それはあなたが○○だから

新聞(2006.1)
法道寺 本田 花風

朝、たっぷり時間をかけて新聞を読むのが日課の一番の時間。時々休刊日があると存在しない。新聞記事で印象的だったことを紹介します。

旧ソ連時代、共産党機関紙「プラウダ(ロシア語「真実」と言う意味)について、こんなジョークがありました。「プラウダに書いてあること、日付だけが本当だ」日本の新聞の信頼度はここまで下がっていません。でも「真実」が書いてあるかと言ふと、考えてしまふ。井上ひさし

新聞の意義は、真実を書くことだけではない。戦前の新聞が不利な戦況にも拘わらず国策によって欺瞞に満ちたニュースを国民に提供した。今日は言論の統制はないが、事実の表現や色彩は各社色々、永年同じ新聞を愛読している内にその色に知らず知らず染色されている事もあるかも知れない。しかし、年の初めはテレビ番組や広告で賑わい分厚さほどの魅力はなく、リサイクルに回される。今年も寝正月、新聞はじっくり目を通したいものである。

投稿いただきます作品は、短歌・俳句それぞれ一句とします。必要な場合は、ルビを付けてください。
また、確認のためお電話することもありますが、連絡先の記入をお願いします。